

2018年4月からパッシブタウンで始まった「めぐり、つながる KAYA DO! (かやどうフリー)」。4月から11月まで毎月第2日曜日に約50店舗が出店し、敷地内にある約100種類の植物を楽しみながら季節に合わせたイベントを開催しています。

今回は、KAYA DO! フリー実行委員会事務局の飛世裕香(とびせ ゆか)さんと実行委員会 地域メンバーの荻野弘文(おぎの ひろふみ)さん、鈴木杏奈(すずき あんな)さん、市橋友子(いちはしともこ)さんからお話を伺いました。



賑わいとつながりが生まれる場に

パッシブタウンの庭を管理する造園会社(株野上緑化)に勤めている飛世さん。パッシブタウンが第3街区まで完成したときに物件所有者であるYKKグループから「パッシブタウンを賑わいの場や地域のつながりの場として活用することはできないか」と相談がありました。そこで、飛世さんが事務局を務め、実行委員会を立ち上げていくことに。実行委員会には黒部で活動をしている人たちや活動したいと思っている人たちに声をかけていきました。

立ち上げ当初から実行委員である荻野さんは、「自分に声がかかったときは、定年退職後に独立して仕事を始めた年だったんです。仕事

をそのまま活かせると思ったし、ライフワークとしてやりたいことでもありました」と当時を振り返ります。

手探りで始まったKAYA DO! フリー。その名称は、パッシブタウンの場所がかつて黒部市三日市茅堂(かやどう)と呼ばれる地域であったことと、行動を起こす意味を持つ「DO」、障壁がない、自由さを意味する「フリー」を掛け合わせてできました。

パッシブタウンの入居者でもある市橋さんは、「私は夫の転勤で黒部に来たので、ここでいろんなつながりを作りたいと思ったんです。ここに住んでいる以上しっかりと関わりたいという気持ちでKAYA DO! フリーのことをしている時間が好きですね」と話します。

黒部市地域おこし協力隊だった鈴木さんは、「パッシブタウンは国内外から転勤や移住されてきた方が多いので、そういった方々と地元の方々が垣根なく楽しめる場所になると思っています。ここが盛り上がりやすくと移住・定住にもつながると思っています」と話します。

世代を越えて、垣根を越えて

KAYA DO! フリーの今年のテーマは「連携・地域とつながり」です。KAYA DO! フリーを知ってもらおうところから始ま



8月のKAYA DO! フリーで賑わう人々

り、今は他団体や地域と連携してKAYA DO! フリーを開催できるようになりました。7月には阿古屋野森づくりクラブによる竹のクラフトワークショップを開催。阿古屋野森づくりクラブの方々も参加者の方々もとても楽しんでいました。8月には黒部踊りと連携。黒部踊り街流し実行委員会にも所属している鈴木さんは、「同日開催で一緒に黒部全体を盛り上げていきたいなと思っていました。当日は、黒部踊りの会場とパッシブタウンをつなぐ電気自動車バス「EMU(エミュー)」を走らせることができて、KAYA DO! フリーチームで



(右奥から)荻野さん、鈴木さん、市橋さんと、(右側)飛世さん



ステージ発表を終えた子どもたちが遊ぶ様子

黒部踊りにも参加することができました」と話します。市橋さんは、「黒部踊りのような伝統芸能が実は私たちの身近にあるんですよね。子どもの頃にお祭りに参加した思い出がある人が多いほど伝統も続いて行くと思うので、地域をつないでいくお祭りを大切にしたいなって感じました」と話します。9月には黒部民謡友の会によるステージ発表も行われ、訪れた若い人々が伝統に触れる場となりました。

桜井高校や富山大学によるワークショップもあり、イベントサポーターとして協力してくれる学生も増えてきています。「学生さんたちが就職活動や将来に活かせるような体験ができたらいなと思っていて、実行委員以外にも協力してくださる人を増やしていけたら、いろいろな変化が付けられると思いますね」と飛世さんは話します。

知ってもらおうことから 次のステップへ

工夫を凝らしながらも立ち上げたときの思いを大切にしている飛世さんと実行委員のみなさん。企画を考えるとときには地元の声、若い世代の声、入居者の声に耳を傾け、最近ではシニア層の声も届くようになってきました。たくさんの方の声が混ざり合ってKAYADO!フリーができています。

荻野さんは、「最初の3年間は特別なイベントのような感じがありました。人々の心をつかむにはそれでよかったと思いますが、そろそろ地域に根差していく時期だとも感じています。市内の他のイベントと全く同じにならないように特別感も残しつつ、もっといろんな人たちが来やすいように生活に寄り添ったものにしていきたいですね」と話します。

「私自身もKAYADO!フリーに関わったからこそ、黒部に素敵なお店や楽しい場所があることを知ってたくさんの方の魅力を感じられました。みなさんのアイデアや今までの経験が絡み合うから、毎回おもしろいことができるのだと思います。地域のみなさんに愛されるKAYADO!フリーでありたい、ここでの気づきを暮らしに持ち帰っていただきたいという思いでまだまだ試行錯誤中です」と飛世さん。4人のお話からは、立ち上げ時の思いは忘れずに新しいことを試みていくことで、地域の賑



黒部民謡友の会によるステージ発表(9月のKAYA DO!フリー)

わいの場や人々のつながりの場としての可能性を広げていけるのだと感じました。そして、多くの人や団体がイベントに参加することで世代を越えた出会いとコミュニティが広がり、地域の魅力を感じられるようになると思います。

KAYADO!フリーの
最新情報配信中

＼CHECK /



Instagram



Facebook



ホームページ